

2018 全日本 F3 第 1 戦 第 2 戦
 鈴鹿サーキット
 2017 年 4 月 21 日

予選 観客: 22,000 人 天候: 晴れ

2018 年全日本 F3 選手権シリーズは鈴鹿サーキットから開幕。昨シーズンチャンピオン争いを演じた坪井 翔は、3 年目の F3 参戦。そして、宮田莉朋は、2 年目のシーズンを迎える。
 シーズン前の合同テスト、今大会の直前に行われたフリー走行でも常にトップを争っていたカローラ中京 Kuo TEAM TOM'S が開幕イベントでも他を圧倒してフロントローを独占。第 1 戦、第 2 戦のポールポジションを分けた。



- 30 分間の予選セッション中、トップタイムで第 1 戦、セカンドタイムで第 2 戦のグリッドを決した。
- セッション前半の 1 セット目のタイヤでまず、坪井がベストタイムを叩き出した。それに宮田が続いた。
- 2 セット目のタイヤをセットして再びコースインしてタイムアップを狙い、宮田がタイム更新に成功したが、坪井はできなかった。
- 宮田は、自身 F3 初のポールポジションを獲得して第 1 戦のスタートを切る。

Drivers	Car No.	Qualifying for 1	Qualifying for 2
坪井 翔	36	P2 1:51.842	P1 1:51.978
宮田 莉朋	37	P1 1:51.842	P2 1:52.327

天候	晴れ/ドライ		
気温/路面温度	気温 21?22 度C	路面: 41?44 度C	

坪井 翔 (36 号車ドライバー)



「シーズンオフから順調に今シーズンに向けてトレーニングを積みむことができましたと思います。まずは、1 セット目のタイヤではでトップタイムをマークできました。そして、2 セット目は予定だとタイムアップできるはずだったのですが、グリップ感がなくて、タイム更新することができませんでした。残念です。しかし、第 2 戦ではポール、両レースフロントロウからスタートできるのでスタートを決めて勝ちたいと思います。ライバルは、チームメイトだけだと思っています。2 人ともに自滅するようなことは避けて良いレースをしたいと思います」

宮田 莉朋 (37 号車ドライバー)



「昨年初参戦して以降、着実に実力をアップできていると思います。フォーミュラ以外にもドライブするチャンスを頂いて、ドライビングにも幅が出たと思います。昨年は、FIA F4 にも参戦していて、F3 とのドライビングの違いで苦しんだ点もありましたけれど、今年のフォーミュラは、F3 だけなので集中して望めます。1 セット目は、グリップのピークの周にペースの遅いマシンに引っかかってしまい、2 セット目では、シケインの進入で右フロントタイヤをロックさせてしまいました。それで、ベストタイムをマークできているので、あれがなかったら 51 秒の半ばまでいけたと思います。スタートを無難にこなせられたら勝機はあると思います」

吉武 聡 (エンジニア)



「開幕戦を迎え、2 人の仕上がり具合は良かったです。練習走行では、常に 2 人がトップタイムを争うという状況です。2 レース供にフロントロウからスタートできるので結果には、満足していますけれど、タイム的には、両ドライバーは、もっと好タイムをマークできたと思います。ちょっと心配なのは、坪井が、2 セット目のタイヤで十分なグリップ感が得られていないこと。これが、決勝で改善されれば良いのですが。そして宮田はスタートをどれだけうまく決められるかが課題です」

関谷正徳 (チーム監督)



「今シーズンの開幕戦をチームとしては、最高の滑り出しで予選を終えられたことを嬉しく思います。今シーズンは、坪井が 3 年目、宮田が 2 年目、ともに毎戦しのぎを削って、勝利を目指すシーズンです。2 人にとって、2018 年シーズンは、とても厳しい 1 年です。そこで、切磋琢磨してチャンピオンを目指して欲しいですね。そして監督としては、2 人が接触等で自滅することだけは避けて欲しいです」

2018 全日本 F3 第 1 戦 第 2 戦
鈴鹿サーキット
2017 年 4 月 22 日

決勝 観客: 34,000 人 天候: 晴れ/晴れ時々曇り

2018 年全日本 F3 選手権シリーズの開幕イベント、第 1 戦、第 2 戦が鈴鹿サーキットで行われ、カローラ中京 Kuo TEAM TOM'S の坪井 翔が 2 連勝を飾り、宮田 莉朋が連続 2 位を獲得してチームにとって最高のシーズンキックオフとなった。



- 第 1 戦セカンドポジションから坪井 翔は、好スタートを切ってトップに立ち、そのまま宮田莉朋を従えて、今シーズンの 1 勝目をマーク。ファステストラップも記録した。
- 宮田は第 1 戦のスタートを失敗。トップの坪井に対して 1 秒くらいのギャップで周回を重ね、終盤にその差を詰めると 0.728 差で 2 位ゴールした。
- ポールポジションから第 2 戦のスタートを切った坪井は、再びファインスタートを切ってトップに立ち、17 周をコンスタントに重ねて 2 勝目をマークし、連続してファステストラップも記録。
- 宮田も第 2 戦では素晴らしいスタートを切ることに成功、しかし、坪井をパスするには至らず、連続の 2 位となった。

Drivers	Car No.	Round 1/ Fastest Lap	Round 2/ Fastest Lap
坪井 翔	36	P1 1:22.424	P1 1:22.210
宮田 莉朋	37	P2 1:22.470	P2 1:22.250

天候	晴れ/ドライ 晴れ時々曇り/ドライ	
気温/路面温度	気温: 24-24/25-25度C	路面: 36-38/40-38/度C



坪井 翔 (36 号車ドライバー)

「昨シーズンまで、不安を抱えていたスタートでしたが練習を重ねて自信を持つことができました。そ野結果、第 1 戦でセカンドポジションからトップに立つことができました。予選では、タイヤのグリップ不足に多少不安がありましたけど、決勝では、それは解消されていました。後ろの宮田選手のペースもよかったです、要所を注意すれば抜かれることはないと思っていました。第 2 戦でもスタートを決めることができトップに立てたのですが、レース終盤に燃料が少なくなってマシンが軽くなればもっとタイムが出ると思っていたのですが、タイヤのグリップが思っていた以上に落ちてしまって苦しい展開となりました。後ろの宮田選手も苦しかったみたいで、そのままトップでゴールすることができました。2 勝、そして、二つのファステストタイムを記録できたのですが、一つポールポジションを取り損なっているので、次戦ではフルポイントを目指します」

宮田 莉朋 (37 号車ドライバー)

「第 2 戦でできたスタートが第 1 戦でも切れていたのなら、絶対に第 1 戦は勝っていたと思うのですが、失敗してしまったので仕方ないですね。必死になって前に行く坪井選手に食らいついて行ったのですが、やはり近づくダウンフォースが抜けてしまったりして苦しい展開となってしまいました。新たなスタートの課題が出てきたので、次戦ではそれを克服して勝利を目指します」

吉武 聡 (エンジニア)

「二人のドライバーが他のチームに優位性を示して両レースで 1-2 フィニッシュを達成してくれました。坪井は、両レースを安定したペースで走行し、成長したところを示してくれました。スタートにはとくに自信を持っていましたね。グリップ不足を訴えていた 1 レース目のタイヤも決勝では安定してグリップを発揮してくれてようす。2 レース目も終盤で苦しい状況の中でもラップタイムの低下を最小限にとどめていました。宮田の 2 レース目はスタートが決まったのですが、坪井も好スタートを切ったので順位を替えるまでには至りませんでした。できれば、今シーズン全レースで 1-2 フィニッシュを決めたいですね」

関谷正徳 (チーム監督)

「F3 3 年目の坪井、2 年目の宮田。その差が結果として現れた鈴鹿の 2 レースでした。2 人のドライバーが持てるパフォーマンスを発揮してくれたので、とても嬉しく思います。これからも 2 人で切磋琢磨してチームとしての連勝記録を更新してくれればと思うと同時に、素晴らしいレースをファンの方々に見せたいですね」

